

H30年12月1日(土)

テーマ： エンド・オブ・ライフケアを学ぶ ―一般病棟編―

講師： 柴土 真由美先生、東 一代先生

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター
緩和ケア認定看護師

場所： ビッグU

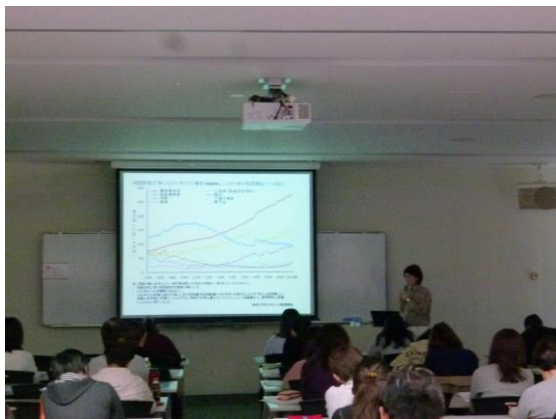
参加者： 62名

なぜ、今「エンド・オブ・ライフケア」なのか？

誰もが安心して人生の終焉を迎えるためには ⇒ 緩和ケアやターミナルケアだけでは十分とはいえ、医療機関のほか、自宅、特別養護老人施設などでの看取りなど、地域における患者とその家族の生活に合わせた終末期ケア体制を確立することが必要 ⇒ 「エンド・オブ・ライフケア」

地域の医療・ケアを良くするのに（知識や技術の向上以上に）、医療福祉従事者間のコミュニケーション、顔の見える関係が大切。看護を繋ぐ。

受講者がそれぞれ自分自身の人生・生き方を考えさせられる研修でした。



緩和ケアを受ける患者の家族ケア

- ・「何かあった時にあなたが一番頼りにしているのはどなたですか？」
 - ・医師からの説明を一緒に聞いてもらいたい人
 - ・治療や過ごし方の意思決定に参加する人
- がん患者の家族：第二の患者（患者サポーター＋ケアを必要とする人々）



あなたは、「もしものこと」を考えたことがありますか？

意思決定支援：人生の最終段階における医療・ケアを進める中で、「本人による意思決定」が基本である。また、本人の意思は変化しうるものであることを踏まえ、話し合いが繰り返し行われることが重要である。

アドバンス・ケア・プランニング：今後の医療・療養（患者本人の気がかりや意向、患者の価値観や目標、病状や予後の理解など）について、患者・家族等と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスのことである。

H30年12月15日(土)

テーマ：部下のやる気を育てる目標管理

講師：池下 ゆかり先生

和歌山県立医科大学附属病院 看護副部長

場所：看護研修センター

参加者：56名

まずは、エゴグラムのチェックを行い、自分自身を知ることから始まる。
皆さんはエゴグラムで自分の特徴をご存知ですか？
人の5つの心、どれに当てはまったでしょう。
自分自身を知って、部下の育て方に悩んでいるところの解決方法を示唆してくれた。

エゴグラムを行ったことがない方、興味のある方は講師から本を紹介してくれました。

(笠井徳子：看護管理者が自分を知るためのエゴグラム,看護の力,No454,産労総合研究所, p 35~45)

上司の思いと部下の思いは対立している。

伝えたい。言いたい事(戦略)が部下に伝わっていないのでは？



なぜ、戦略が伝わらないのでしょうか？

※ 説明が一度だけになっていませんか？

※ しつこいくらい繰り返して伝えていますか？

面接を行う上での留意点・面接の時期・面接の手順を考えて行っていますか？

細かなところまで講義してくれた。



管理者として、部下を育てるに当たっての
悩みをグループワーク。
講師もディスカッションに参加。

さすが、管理者研修。
発表する際には、自主的に挙手。



H30年12月18日(火)

テーマ：今からでも遅くない 一学ぼう心電図一

講師：穴井 聖二先生

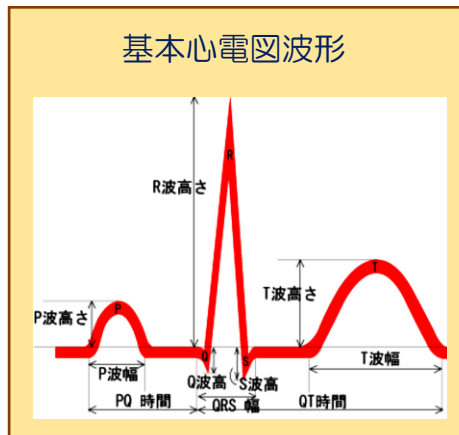
和歌山県立医科大学附属病院 集中ケア認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：午前 73名 午後 38名

人工呼吸器に並んで、苦手意識の強い心電図。

心電図の基礎から、計測方法、不整脈について、そして不整脈の判読などの講義をしてくれる。



波形などについては、クイズ形式で。講義の最後には、随分波形がわかるようになったのではないのでしょうか？ 苦手意識はましになりましたか？

講師には午前と午後の2回の講義をお願いしました。ありがとうございました。

心拍数はいくつ？



この波形は何？

